

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320004

研究課題名(和文) 三層構造分析に基づくアジアの生命倫理の調査研究

研究課題名(英文) Research into Bioethics in Asia Based on Three levels Structure Analysis

研究代表者

高橋 隆雄 (TAKAHASHI, TAKAO)

熊本大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：00145278

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円、(間接経費) 4,080,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はアジア諸国の生命倫理を、三層構造分析によって解明することを目指している。H25年度は、それまでのテーマ「終末期医療」、「生殖医療」に加えて「臓器移植」の領域に三層構造分析を適用するとともに全体の総括を試みた。具体的には、中国、韓国、イラン、インド、タイ、パキスタン、フィリピン、ロシア、バングラデシュの生命倫理の調査研究を実施し、12月7日・8日に熊本大学において国際セミナーを開催し、それぞれの研究成果を発表した。発表は論文化され、Eubios Journal of Asian and International Bioethicsに掲載された。

研究成果の概要(英文)：This research aims at elucidating the structure of bioethics in Asian countries through the method of Three-Level-Analysis. This year we applied the method to the theme of "organ transplantation" in addition to those of the previous years, i.e. "end of life care" and "reproductive medicine". We also summarized the results of the three-year research. Concretely, this year we conducted the research into the bioethics in China, Korea, Iran, India, Thailand, Pakistan, the Philippines, Russia, and Bangladesh, and held the international seminar on bioethics on 7-8 December at Kumamoto University. What they presented was published in Eubios Journal of Asian and International Bioethics.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：生命倫理 三層構造 日本の生命倫理

1. 研究開始当初の背景

約30年の歴史をもつ日本の生命倫理では、医療現場からの議論と倫理学者の議論はしばしばすれ違ってきた。両者を橋渡しするため研究代表者等は、13年前に生命倫理研究会を設立し、論文集9冊（九州大学出版会）の刊行や研究会や国際セミナーを開催してきた。そして問題の淵源は、（1）医療や生命科学の現場での判断や医療実践の現状、（2）医療や生命科学の現場に指針を与える具体的原理、（3）具体的原理の根拠となる基礎的概念や原理という「三層」の関係を問わずにきたところにあることを把握した。このような問題意識から、研究代表者が中心となり3年間、日本の生命倫理の三層構造の分析を続けてきた。この研究を通じて、普遍的とされる（2）の原理が現場の実情や慣習、道徳感覚等に影響されて特殊化されること、（1）の現場での道徳感覚と（3）の抽象的原理とが密接な関係を持つこと等が解明された。アジアの研究者との研究交流として、平成19年よりUNESCO-Kumamoto University Bioethics Roundtable を、研究代表者が中心となって開催し、毎回多数のアジアの研究者たちの参加をみている。研究代表者は平成21、22年にAsia Bioethics Conferenceにおいて研究発表したが、とくに22年度は三層構造分析について発表した。先行研究であるが、三層構造分析による生命倫理の構造の研究は国内外を通じて独創的である。また、アジアの生命倫理の研究では個別の国についての調査が主体であり、三層構造分析も行われてこなかった。

2. 研究の目的

三層構造分析は、これまで多くの研究が対象としてきた（2）医療や生命科学の現場に指針を与える具体的原理、や（1）医療や生命科学の現場での判断や医療実践の現状、の考察だけでなく、それらと（3）具体的原理の根拠となる基礎的概念や原理、との関係を探究する点で、宗教、民族、政治体制、歴史においてきわめて多様なアジア諸国の生命倫理の考察に適している。対象となる国は、宗教的多様性等を考慮して、韓国、中国（香港を含む）、台湾、タイ、フィリピン、インド、パキスタン、イラン、ロシアの9カ国である。これらの国における生命倫理の中でも、これまで多くの問題を提起してきた（A）終末期医療、（B）遺伝・生殖医療、（C）移植医療の三領域に関して三層構造分析を行う。まず、各国の生命倫理関連法、政府指針、学会指針、生命倫理の論文等から、上記の三領域について、三層の具体的内容、すなわち（1）医療現場の実情、倫

理的判断、道徳感覚、（2）具体的生命倫理原理、（3）根拠となる倫理学原理、人間観、生命観、宗教的価値等、を探究する。次に、それぞれの国において（2）の具体的原理について、欧米で標準とされ普遍的とされるピーチャム&チルドレスの4原理（患者の自律尊重、無危害、善行、正義）がどのように現場に根づこうとしているかを探究するとともに、それらと、それ以外の原理、たとえば伝統の尊重、連帯、人間の尊厳、生命一般の尊厳といった原理の関係の考察が期待される。さらに、それら生命倫理原理が現場における実践（（1）の層）の影響を受けて解釈される際に、（3）の抽象的原理や価値観が反映される仕方を探究する。こうした考察により、それぞれの国における生命倫理の構造が解明され、また、各国の生命倫理の構造の比較を行うことで、アジアの生命倫理の全体像を得ることが期待される。また、本研究では生命倫理における宗教の役割の解明を重視し、対象となる9カ国は、宗教の多様性という観点からも相応しい国を選んだ。仏教、儒教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラム教、道教のそれぞれについて、生命倫理の現場への影響および生命倫理原理の根拠としての位置を解明する。本研究では、日本の生命倫理の構造分析を通じて得られた研究成果を十分に活用するが、多様なアジア諸国に適用することを通じて、構造分析の方法をいっそう洗練することも目的の一つである。

3. 研究の方法

本研究は三層構造分析の手法に基づいてアジア各国の生命倫理の構造を解明することを目的としている。そのために、アジア諸国の中でもとくに宗教の多様性（仏教、儒教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラム教、道教）を考慮して、台湾、中国（香港を含む）、イラン、韓国、フィリピン、タイ、パキスタン、インド、ロシアの9カ国を調査対象とした。そのうち、台湾、香港・中国、イランは日本国内在住の外国人研究者が担当し、他の6カ国についてはそれぞれの国の研究者を研究協力者としている。これら9カ国の研究分担者および研究協力者は、いずれもこれまで研究代表者の主催する国際セミナーへの招待講演者あるいは研究分担者との共同研究者であり、研究協力の蓄積を有している。また、日本人研究者はこれらのいずれかの国を担当する。調査研究の領域は、現在にいたるまで多くの問題を提起し続けている、「終末期医療」、「生殖医療」、「移植医療」の3領域である。それらの領域について考察する観点は、生命倫理関連の法律・指針に関して考察する「法と生命倫理」、各国の生命倫理をアジア全体の視点で考察する「アジアの生命倫理」、ユネスコの提唱

する普遍的生命倫理の視点から考察する「普遍的原理」、人々の価値観の現状とその基盤を考察する「価値意識」、宗教が生命倫理に及ぼす影響を考察する「宗教と生命倫理」の5つの観点である。領域について、またこれらの観点についても適任者が配置されている。調査研究を構造分析にまとめ上げる方法は三層構造分析であり、(1) 医療や生命科学の現場での判断や医療実践の現状、(2) 医療や生命科学の現場に指針を与える具体的原理(患者の自律尊重、無危害、善行、正義など)、(3) 具体的原理の根拠となる基礎的概念や原理、という「三層の関係・連関を体系的に探究する方法である。以上を総括すると以下のようになる。

・調査研究の対象国：台湾、中国(香港を含む)、イラン、韓国、フィリピン、タイ、パキスタン、インド、ロシア

・領域：「終末期医療」、「生殖医療」、「移植医療」

・観点：「法と生命倫理」、「アジアの生命倫理」、「普遍的原理」、「価値意識」、「宗教と生命倫理」

・分析方法：三層構造分析

4. 研究成果

H23年度は6月に全体会議を開催して調査研究の全体計画について検討し、それに基づいて、台湾、中国、韓国、イラン、インド、タイ、パキスタン、フィリピン、ロシアの生命倫理研究者による調査研究と、法的観点や普遍的原理の観点等を分担する日本人研究者による研究を実施した。研究の内容は終末期医療における三層構造の分析を主とするものであり、12月5日に熊本大学において科研費研究国際セミナーを開催して各国の研究者が研究成果を発表した。その内容は Eubios Journal of Asian and International Bioethics に掲載された。H23年度はアジア諸国の終末期医療に三層構造分析を適用したが、特に、普遍的原理を両側から挟む、具体的で文化的・ローカルレベルと、普遍的原理の基礎にある抽象的あるいは宗教的レベルとの親密な関係の究明を行った。H24年度は、H23年度の全体テーマ「終末期医療」に続き、「生殖医療」の領域に三層構造分析を適用した。具体的には、中国、韓国、イラン、インド、タイ、パキスタン、フィリピン、ロシア、バングラデシュの生命倫理研究者による調査研究と、それらと連携して法的観点や普遍的原理の観点等を分担する日本人研究者による研究を実施した。9月の全体会議で進捗状況等が検討され、H24年12月10日(日)熊本大学において、研究分担者と協力者が一堂に会する科研費研究国際セミナーを開催し、各国の研究者がそれぞれの研究成果を発表した。その発表内容は論文化され Eubios Journal of Asian and International Bioethics に

掲載された。普遍的視点とローカルな視点の両者を不可欠とする生命倫理研究の重要性は今年度の研究でも再確認され、たとえば生殖医療がアジア諸国にもそれぞれの文化的宗教的背景のもとに普及していること、また、イスラム諸国の間でも国により生殖医療への規制にきわめて大きな相違がみられること等を見出すことができた。H25年度は、それまでのテーマ「終末期医療」、「生殖医療」に加えて「臓器移植」の領域に三層構造分析を適用するとともに全体の総括を試みた。具体的には、中国、韓国、イラン、インド、タイ、パキスタン、フィリピン、ロシア、バングラデシュの生命倫理の調査研究を実施し、12月7日・8日に熊本大学において国際セミナーを開催し、それぞれの研究成果を発表した。これにより、アジア諸国の生命倫理が、伝統や宗教というローカルな要素と欧米的な普遍的要素のほかに、経済という要素に規定されていることが確認された。すなわち、三層構造は、倫理的問題発生現場、倫理的原理、倫理的抽象概念や宗教という層から成立するが、その層の基底に経済という別の層の存在を確認することができた。別の視点から見れば、倫理的問題の発生や倫理的原理の内容を規定するのは、宗教や伝統、欧米的な価値観・倫理観だけでなく、いわば下部構造として経済、経済的状况、そしてそれに影響される政治的状况があるということの確認である。これらの発表は論文化され、Eubios Journal of Asian and International Bioethics に掲載された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計30件)

- ① Nader Ghotbi, Religion and Ethics in the Japanese Society, Eubios Journal of Asian and International Bioethics, 査読有、24巻、2014、pp.2-5
- ② Masayuki Kodama, The Current State of Surrogate Conception in Japan and the Ethical Assessment of Dr. Yahiro Netsu, UNESCO Eubios Journal of Asian and International Bioethics, 査読有、24(1)巻、2014、12-17
- ③ 児玉正幸, 多民族国家マレーシアの代理出産に関する法規大系(国家法、シャリーア、ファトワー)の予備調査、先端倫理研究、査読有、8巻、2014、pp.90-99
- ④ 浅井篤, 石本博子 我々は意思決定能力を欠いた患者の治療拒否を尊重すべきか。先端倫理研究 査読有、8巻、2014、pp.25-35
- ⑤ Yasuhiro Kadooka, Miki Fukuyama, Atsushi Asai. A comparative survey

- on potentially futile treatments between Japanese nurses and laypeople. *Nursing Ethics*, 査読有、2014、vol. 24 巻、pp.64-75
- ⑥ Sakiko Masaki, Hiroko Ishimoto, Atsushi Asai, Contemporary issues concerning informed consent in Japan based on a review of court decisions and characteristics of Japanese culture, *BMC Medical Ethics*, 査読有、2014、pp.5-8
- ⑦ Noriko Nagao, Yasuhiro Kadooka and Atsushi Asai, Comparison of Ethical Judgment Exhibited by Clients and Ethics Consultants in Japan, *BMC Medical Ethics*, 査読有、2014、pp.15-19
- ⑧ Atsushi Asai, Yasuhiro Kadooka, Barriers to Clinical Ethics Mediation in Contemporary Japan. In *The Future of Bioethics*, Oxford University Press. Akira Akabayashi, edition, Oxford, 査読有、2014、pp.712-717
- ⑨ 稲葉一人, 薬害過誤の歴史から学ぶーC型肝炎事件, *Clinical Pharmacist*, 査読有、5(6)巻、2014、pp.88-93
- ⑩ 稲葉一人, 薬害過誤の歴史から学ぶー薬害エイズ事件, *Clinical Pharmacist*, 査読有、5(5)巻、2014、pp.72-77
- ⑪ 稲葉一人, 薬害過誤の歴史から学ぶー予防接種禍事件, *Clinical Pharmacist*, 査読有、5(4)巻、2013、pp.77-83
- ⑫ 稲葉一人, 薬害過誤の歴史から学ぶースモン事件, *Clinical Pharmacist*, 査読有、5(3)巻、2014、pp.81-87
- ⑬ 稲葉一人, 薬害過誤の歴史から学ぶーサリドマイド事件, *Clinical Pharmacist*, 査読有、5(2)巻、2013、pp.85-89
- ⑭ 稲葉一人, 薬害過誤の歴史から学ぶー何から学ぶか、どう学ぶか, *Clinical Pharmacist*, 査読有、5(1)巻、2013、pp.78-81
- ⑮ 高橋隆雄, ケアの意味の核にあるものーメイヤロフ、ギリガン、アリストテレスー, 法の理論 32, 査読有、1巻、2013、pp.27-58
- ⑯ Takao Takahashi, Bioethics and the Dead: Application of the concept 'Cambridge change', *Eubios Journal of Asian and International Bioethics*, 査読有、Vol. 23, 2013、pp. 135-137
- ⑰ 藤井可, 「治療化」についての一考察ーiPS細胞を利用した再生医療を通じてー, 人間と医療, 査読有、3巻、2013、pp.4-49
- ⑱ On-Kwok Lai, Socio-Ethical Contours of Reproductive Medicine in Hyper-Modernizing Societies, *Journal of Policy Studies*, Kwansai Gakuin University, 査読有、43巻、2013、pp.15-32
- ⑲ On-Kwok Lai, Transnational Subcontracting of Filial Piety in East Asia Ageing Societies. *Public Administration and Policy, Asia Pacific Journal*, 査読有、16(2)巻、2013、pp.50-67
- ⑳ Nader Ghotbi, The ethics of organ transplantation in the Islamic Republic of Iran, *Eubios Journal of Asian and International Bioethics*, 査読有、23巻、2013、pp.2-5
- ㉑ Nader Ghotbi, Right to Health or the Human Right of Access to Essential Healthcare, 査読有、3巻、2013、529-537
- ㉒ Masayuki Kodama, The Current State of Surrogacy in Thailand and the Ethical Assessment of Dr. Somboon Kunathikom, *UNESCO Eubios Journal of Asian and International Bioethics*, 査読有、23(3)巻、2013、pp.93-100
- ㉓ 児玉正幸, タイの代理出産の現状とタイの商業的代理出産を支える上座部仏教の生殖医療観ータイ生殖医療(代理出産)倫理の調査研究、人間と医療、査読有、24巻、2013、pp.13-21
- ㉔ 児玉正幸, 本邦初の新型着床前診断臨床適用に関する倫理的考察、生命倫理、査読有、24巻、2013、pp.63-71
- ㉕ Atsushi Asai, Kenji Miki, Case study concerning privacy in the care of patients with HIV. *Eubios Journal of Asian and International Bioethics*, 査読有、23巻、2013、pp.13-17
- ㉖ Atsushi Asai, Commentary Tsunamitendenko and morality in disasters *Journal of Medical Ethics* 査読有、2013-101629 Published Online First: 22 July 2013 doi:10.1136/medethics-2013-101629
- ㉗ Atsushi Asai, Yasuhiro Kadooka, Reexamination of the ethics of placebo use in clinical practice, *Bioethics*, 査読有、2013、27巻、pp.186-193
- ㉘ Kuniko Aizawa, Atsushi Asai and Seiji Bito, Defining futile life-prolonging treatments through Neo-Socratic Dialogue, *BMC Medical Ethics*, 査読有、2013、pp.14-51
- ㉙ Aizawa K, Asai A, Kobayashi Y, Hoshiko K, Bito S, Neo-Socratic

dialogue on fairness in the healthcare system., *Eubios Journal of Asian and International Bioethics*, 査読有、2013、23(5)巻、pp.167-171

- ⑩ Yasuhiro Kadooka, Atsushi Asai, Medical Futility in Japan. *Medical Futility A Cross-National Study*, Alireza Bagheri edition. Imperial College Press, 査読有、2013、145-162

[学会発表] (計16件)

- ① On-Kwok Lai, Questioning the Rio+20 Eco-Social Justice in Hyper-Modernization. Centre of Urban Studies & Urban Planning, The University of Hong Kong (香港)、2014年03月05日
- ② On-Kwok Lai, Policy Making in Hong Kong: Half In-Outside View, Dept. of Applied Social Studies, 2014年02月28日、Polytechnic University (香港)
- ③ On-Kwok Lai, “Silver Market in Japan”, by Central Policy Unit, 2014年02月26日、Hong Kong Government (香港)
- ④ On-Kwok Lai, Silver Market in Japan: Socio-Economic Implication for Ageing Society in East Asia, Population Policy Consultation Workshop, 2014年02月14日、Hong Kong Council of Social Services (香港)
- ⑤ On-Kwok Lai, “Silver Market” in Japan: Socio-Economic Exceptionalism in East Asia?, 2014年02月11日、Hong Kong Polytechnic University – Institute of Active Ageing (香港)
- ⑥ Masayuki Kodama, Preliminary Research into the Spiritual Backbone of Vietnam for an Investigation of Vietnamese Reproductive Medical Ethics, the 6th International Seminar on Biocosmology: Perspective of the Integration between Biocosmology and Asian Bioethics, 2013年12月09日、熊本大学 (熊本市)
- ⑦ Masayuki Kodama, The Religious Vies of Reproductive Technology in India and Thailand at the Root of Reproductive Medical Ethics – Ethical Research concerning Reproductive Medicine (surrogacy)

in India and Thailand by Means of a Three-Layered Structural Analysis, UNU-Kumamoto University Bioethics Roundtable, KBRT7, 2013年12月08日、熊本大学 (熊本市)

- ⑧ On-Kwok Lai, The Differential Reciprocities in Organ Donation Realm, Joint UNU-Kumamoto University Bioethics Roundtable, 2013年12月07日~2013年12月08日、熊本大学 (熊本市)
- ⑨ Takao Takahashi, Aspects of Three Levels Relationships in Bioethics, UNU-Kumamoto University Bioethics Roundtable, KBRT7, 2013年12月07日、熊本大学 (熊本市)
- ⑩ On-Kwok Lai, Contradictory Socio-Technological Innovations in the Informational City. Intl. Conference: Social Justice and The City, 2013年12月04日~2013年12月06日、Hong Kong Baptist University (香港)
- ⑪ 児玉正幸, 日本の代理懐胎の現状と根津八紘医師の倫理的判断 – 日本生殖医療 (代理懐胎) 倫理の調査研究、日本医学哲学・倫理学会第32回大会、2013年10月20日、大阪歯科大学 (枚方市)
- ⑫ 高橋隆雄, メイヤロフのケア論の思想的背景、日本医学哲学・倫理学会第32回大会、2013年10月19日、大阪歯科大学 (枚方市)
- ⑬ 児玉正幸, 本邦初の新型着床前診断臨床適用に関する倫理的考察、第4回九州医学哲学・倫理学会、2013年09月07日、鹿児島大学 (鹿児島)
- ⑭ Takao Takahashi, Prospect of Animism in the Light of Biocosmology: Synthesis of Nature-based Ethics and Reason-based Ethics, XXIII World Congress of philosophy, 2013年08月09日、アテネ (ギリシャ)
- ⑮ 稲葉一人, 医療のプロフェッショナルリズム、2013年05月19日、プライマリーカーケア連合学会 (仙台市)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：

様式 C-19、F-19、Z-19、CK-19 (共通)

国内外の別:

研究者番号: 90467994
(3) 連携研究者
なし

○取得状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://manabitetokini.weebly.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 隆雄 (TAKAHASHI, Takao)
熊本大学・大学院社会文化科学研究科・
教授
研究者番号: 00145278

(2) 研究分担者

位田 隆一 (IDA, Ryuichi)
同志社大学教授
研究者番号: 40127543

On-Kwok LAI
関西学院大学・総合政策学部・教授
研究者番号: 40309406

GHOTBI Nader
立命館アジア太平洋大学・教授
研究者番号: 40378526

浅井 篤 (ASAI, Atsushi)
熊本大学・大学院生命科学研究部・
教授
研究者番号: 80283612

稲葉 一人 (INABA, Kazuto)
中京大学・法務研究科・教授
研究者番号: 80309400

藤井 可 (FUJII, Taka)
佐賀大学・医学部
研究者番号: 80576819

児玉 正幸 (KODAMA Masayuki)
鹿屋体育大学・教授
研究者番号: 90183342

Darryl Raymund Macer
熊本大学・社会文化科学研究科・教授